

コンクリートメンテナンス協会

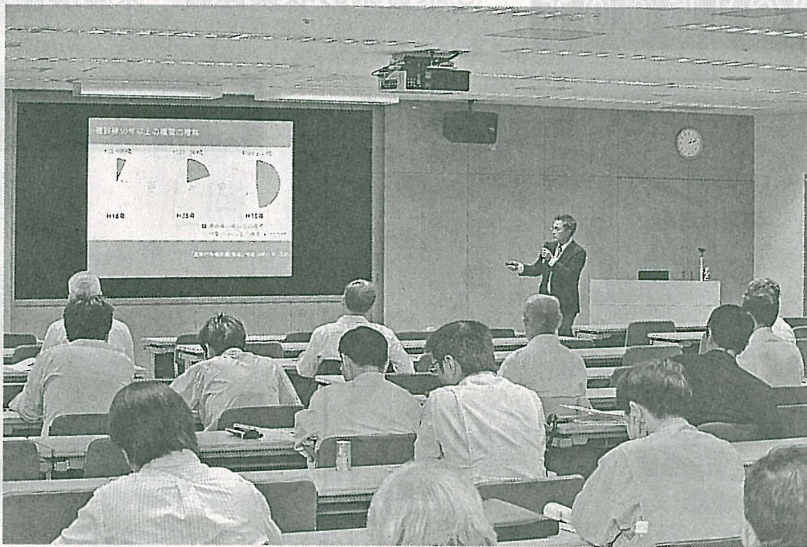
島根・鳥取でフォーラム 計140人が補修技術学ぶ

(一社)コンクリートメンテナンス協会(徳納武使会長)が今年全国20カ所で開催を予定している「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2014」の9番目・島根フォーラム(松江テルサ)と10番目・鳥取フォーラム(とりのぎん文化会館)が12日と13日にそれぞれ開かれ、官庁・コンサル関係者を中心とする延べ約

140人の技術者が参加し、補修・補強に関する知識を深めた。

徳納会長は開催あいさつで、「現地調査で『劣化機構』と『劣化程度』を特定して『要求性能』を決め、それを満たす補修工法を選定する。このような補修設計フローに沿って取り組めば、コンクリート

補修は決して難しいものではない」と強調。フォーラム内で披露する防錆剤を使った補修工法と塗膜型剥落防止システムについても紹介する一方で、「我々は特定の技術の工法協会ではない。今後もある有効な新技術を議論しながら推進していきたい」と述べた。



島根フォーラムのもよう

講演は、極東興和㈱の

江良和徳氏による「コンクリートの劣化と補修工法選定の考え方」と日本ペイント販売㈱の中丸大輔氏による「コンクリート剥落防止と塗膜型剥落防止システムについて」の2本立てで行われ、江良氏はコンクリート構造物の劣化メカニズムと補修工法選定の基礎知識を解説するとともに、亜硝酸リチウムを用いた鉄筋防食抑制等の効果的な補修工法について、最新の情報と実績を紹介。中丸氏は、特殊な塗料を表面に塗るだけでコンクリート片などの剥落を防止できる「タフガードQR工法」について概要を説明した。

同フォーラムは、5月9日に鹿児島で開催されたのを皮切りに全国で順次開催される予定で、広島フォーラムは今年20日、広島市中区中島町の国際会議場で午前10時半から開かれる。